

みやぎの 林業だより



表紙写真

みやぎの森林・林業「写真」コンクールの最優秀作品「森の弦楽三重奏」

< 関連記事 P3 >

目 次	【話 題】◎気仙沼市の観光拠点が完成 ー 鹿折金山資料館落成式開催ー…………… 2
	◎パーティクルボード工場が操業再開…………… 2
	◎第5回みやぎの森林・林業「写真」・「児童・生徒木工工作」コンクールの結果発表…………… 3
	◎みやぎ材・木になるフェア開催…………… 3
	◎県産材エコ住宅普及促進事業を活用して住宅を建てた 施主の声をお届けします…………… 4
	◎住まいの耐震博覧会が開催…………… 4
	◎鬼首山の子探検隊「海の子山の子交流会」開催される ～海もいいけど鳴子の自然もワイルドだぜえ～…………… 5
	◎「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業」がスタート！…………… 6
	◎「森林ボランティアの森造成植樹祭及び情報交換会」が開催されました！… 6
	◎森林・林業教育の支援体制 ～せんだい「森の教室」サポートバンクを設置！～…………… 7
	◎「栗原の森林・自然・きのこ生産現場見学会」を開催…………… 7
	◎特用林産物の出荷制限・出荷自粛について…………… 8
	◎「竹林再生プロジェクト」開始…………… 9
	◎きのこのイベント大いに盛り上がる～風評被害の払拭へ～…………… 9
	◎松くい虫国営防除事業の実施…………… 10
	◎緑の大切さを学ぶ！第37回宮城県みどりの少年団大会開催される …… 10
	◎森林施業担い手確保・育成推進会議・経営者セミナーを開催しました …… 11
	◎「スミセイの森宮城」が開所しました…………… 11
	【シリーズ】◎研究情報コーナー
・無花粉（雌性不稔）スギの開発…………… 12	
・木質系燃焼灰の有効利用に関する実証試験…………… 12	
【市 況】◎木材市況の動向・特産市況の動向…………… 13	

平成24年11月26日
発 行

198号

気仙沼市の観光拠点が完成

— 鹿折金山資料館落成式開催 —

十月十三日(土)に鹿折金山資料館関係者約六十名が参加し、落成式が開催されました。

鹿折金山資料館は、気仙沼市上東側根に以前からあった資料館が老朽化したため、地元住民の要望を受けて、気仙沼市が近くに場所を確保し新築しました。

建設費は一千七百万円で、森林整備加速化・林業再生事業を導入して平成二十二年から着手し、東日本大震災を乗り越え、六月に完成しました。

鹿折金山資料館は、延べ床面



落成式のテープカット



鹿折金山資料館全景

積百十九平方メートルの木造平屋建てで、三角錐の屋根に立方体の天窗が付いた個性的な建物となっており、内部は、資料展示室のほか、会議室や事務室を備えています。

また、構造材や内装材には、地元の山から伐採し地元製材所で製材した材を使用しています。

気仙沼市では、鹿折金山が奥州藤原氏の黄金文化を支えた歴史があることから、鹿折金山資料館を歴史的な観光拠点として活用することになっています。

今後、大島等に続く気仙沼地域の新たな観光資源として期待が高まっています。

(気仙沼地方振興事務所)

パーティクルボード工場が

操業一再開

東日本大震災で被災したセイホク株式会社パーティクルボード工場が復旧し、七月十四日から、一年四ヶ月ぶりに生産を再開しました。

同工場は東日本大震災の津波により四割近く浸水するとともに、一部火災も発生し壊滅的な被害を受けましたが、国の木材供給等緊急対策事業及び木材加工流通施設等復旧対策事業を活用しながら、施設の修繕や更新により懸命な復旧を行ってきました。その結果、今年の七月上旬に復旧が完了し、JIS認証の復旧届けも提出して操業再開を果たしました。

同工場では、震災前までMDF工場で使用していたチップ

サイロを

活用して原料

チップを分別管理し、

住宅解体材のチップ、

間伐材のチップ、合

板端材等の



ボード製造ラインの稼働開始

チップに分けて、パーティクルボードを生産することになっています。生産量は、震災前を約千トンを上回る、月七千トンを目標にしており、被災し休止されたMDF工場に代わって、C材の受け入れ先としても期待されます。

セイホク株式会社では、今回のパーティクルボード工場の再稼働により、すでに生産を再開している合板工場やLVL工場と合わせて、予定されていたすべての工場の復旧・再稼働が実現したことになります。



分別管理を行うチップサイロ

これから石巻地域の合板会社が復旧から復興に向けて力強く歩み出していくことにより、本格的に復活することあるしつがある復興住宅建設等への木材製品の安定供給や、地域の雇用維持への貢献が期待されます。当事務所では、今後も引き続き、林業・木材産業の復興と活性化に向けて、支援を行っていきます。

(東部地方振興事務所)

**第五回みやぎの森林・林業
「写真」児童・生徒木工工作
コンクールの結果発表**

この両コンクールは、「みやぎの木づくり運動」の一環で開催されています。今年も多数の応募をいただきました。次に概要と結果をお知らせします。

■「写真コンクール」概要

主催 財団法人みやぎ林業活性化基金
募集期間 七月一日～八月三十一日
応募作品数 三十九点
(応募者数十六名)



優秀賞「らくちん床替え」

最優秀賞

河本 悟様
「森の弦楽三重奏」
(表紙をご覧下さい。)

優秀賞

太田 清蔵様
「らくちん床替え」
同 佐々木 智恵様
「馬力でガンバレ」

■「木工工作コンクール」概要

主催 宮城木材文化ホール運営委員会
募集期間 七月一日～九月三日
応募作品数 百八十七点(応募総数学校数五十六の校内審査から応募された作品数)

●小学校低学年の部

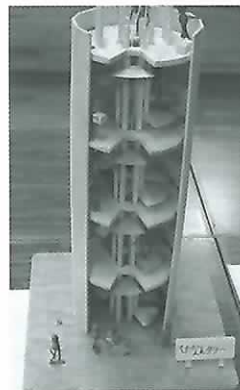
最優秀賞 西住小
優秀賞 小野 蓮斗君(写真)
富永小
同 佐藤 晃希君
茂庭台小
熊谷 眞之介君



最優秀賞「みんな集まれ」

●小学校中学年の部

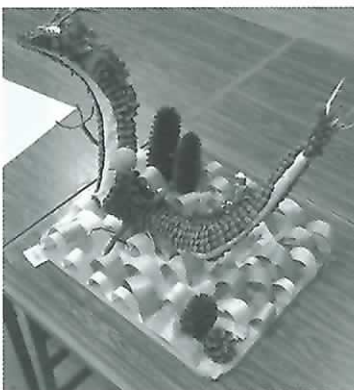
最優秀賞 七郷小
千葉 拓末君(写真)
優秀賞 松森小
新田 華子さん
大鷹沢小
同 角張 楓征君



最優秀賞
「ひなんタワー」

●小学校高学年の部

最優秀賞 七郷小
千葉 彩未さん(写真)
優秀賞 中津山小
及川 竜輝君
同 西住小
阿部 季環さん



最優秀賞「のぼり龍」

(林業振興課みやぎ材流通推進班)

**みやぎ材。開催
木になるフェア**

平成二十四年十月七日、仙台木材市場構内において、県産木材の良さをPRすることを目的に、みやぎ材・木になるフェアが開催されました。(同フェア実行委員会主催)

優良みやぎ材建築相談会をはじめ、県産材の木工作体験や上棟餅まき、柴田兄妹の津軽三味線演奏など、楽しいコーナーで終日賑わいました。特に今年は、震災被災者の住宅再建を支援しよう、仮設住宅にお住まいの方へも催事PRに努めたところ、助成制度や融資に関する相談などが数多く寄せられました。



「県産材を使ってね！」

(林業振興課みやぎ材流通推進班)

県産材エコ住宅普及促進事業を活用して住宅を建てた施主の声を届けます

◆施主 佐藤 陽子さん

震災で家を失ったため、住宅を再建し、移住することを考えていました。

木造住宅を建てようとは思っていませんでしたが、友人の木造住宅を見て、木のぬくもりを感じたこと、また、工務店からこの補助事業を紹介していただき、実際に木造住宅を見学して気に入ったことから、県産材で住宅を建てることを決めました。

住んでみると、暖かみを感じ、また、家の中が明るく、木の香りに心が癒されます。子どもたちは「こない家に住んだら他には住めない」などと話



しています。今後、長年住むうちに木の色が良くなっていくのが楽しみです。

震災で何

もかも失ったため、この補助金には大変助けられました。この事業をもっとPRし、家を再建する方へのこの事業をぜひ利用して欲しいと思います。

◆施工業者 徳田工務店

代表取締役 徳田 実さん



県産材を使用し、家づくりを行っていきますが、現在では県産材を扱う製材所が少なくなっています。

宮城の森林を元気にするためにも、この事業を長期的に継続してもらいたいと思います。



(林業振興課みやぎ材流通推進班)

住まいの耐震博覧会が開催

去る九月二十二日(土)、二十三日(日)にみやぎ夢メッセにおいて、ナイス株式会社主催による「羽ばたこう東北すまい元気フェア」をテーマとして「住まいの耐震博覧会」が開催されました。

民間企業の住宅設備も展示される中、木材コーナーでは、宮城県森林組合連合会及び県内の各森林組合が中心となり、宮城県産材ブースを出展し、会場には多くの来場者を迎えました。

宮城県産材ブースでは、県内の民間企業の部材提供の協力を得て、県産材及び県産材合板、県内企業が取り扱う土台部材を構造材として組み立て展示し、写真もあわせて紹介し、建築関係者から大変興味を持って頂きました。

組み立てたものには東北職業能力開発大学の青柳喜浩先生が開発した耐震・制振部材も取り付けられ、登米町森林組合等の格子ベンチ、石巻地区森林組合の箆笥なども展示されました。また、青森県を除く東北地方五県がブースを出展しました。

福島県のブースでは、木材の放射能汚染に対する安全性をPRしていました。

他にも博覧会会場内では、ヒーロー戦隊ショー、くじ引き抽選会、木工体験コーナー、上棟式で行われる「餅撒ぎ」も催されました。他にも各種の住宅相談コーナーも充実していました。

昨年度は震災の影響もあり開催されませんが、今年はいは来場者が約一万五千人に達し、建築関係者だけでなく、数多くの県民が来場されたことから、復興に向けた県産材の活用をアピールする絶好の機会となりました。



(林業振興課みやぎ材流通推進班)

鬼首山の子探検隊

「海の子山の子交流会」開催される!

海もいけど鳴子の自然もワイルドだぜえ

去る八月四日及び五日、大崎市鳴子鬼首地区において、鬼首地区公民館主催による「鬼首山の子探検隊」の活動の一環として、「海の子山の子交流会」が開催されました。

本交流会は、石巻の北上川に注ぐ荒雄川の源流において石巻の子どもたちと鬼首の子どもたちが鬼首の雄大な自然を介し交流することを目的に企画していたものでしたが、折しも昨年の三月に発生した東日本大震災で被災したことから、計画を断念していた取組でした。

鬼首地区では、石巻市牡鹿地区に被災直後からいろいろな面で被災地支援をしてきたことから交流が芽生えたとのことで、石巻市牡鹿公民館と初めて合同で行うことになりました。

今回の交流会には、本事務所を始め、地元の林業研究会連絡協議会や子ども会育成会連絡協議会等十を超える団体の協力を得て、準備を行って参りました。

た。

当日は、地元鬼首の子どもたち二十二名と石巻の子どもたち十三名の総勢三十五名の参加があり、鬼首が一望できるオニコウベスキー場山頂の「カブトムシの森」での触れ合いから交流が始まりました。

森林散策では、吹上地獄谷を歩き熱湯が噴き出す間欠泉を見ては歓声を上げていました。また、途中「温泉玉子作り」にもチャレンジし、そのおいしさに満足げでした。

当事務所職員が講師を務め行った「ヒノキの木製短冊作り」や「メモリアル木製ツリー作り」には、参加した子どもたちに願いごとを書いてもらい、準備した青竹に飾り付けをみんなで行いました。飾り付けした短冊の中には、「早く街が元どおりになりますように」「石巻の子と友だちになれるように」「海の子山の子交流が来年も続きますように」との願いごとがありました。

その後も縄文音楽体験や星空観察など準備したいろいろなカリキュラムが行われました。

被災した石巻の子どもたちを招いての交流会で、直ぐにう

ち解けられるか心配でしたが、共通の時間を過ごすうちに「心がうち解け」最初から友だちであったかのような雰囲気でも過ごしていました。

事務所としては、本交流会は二日間と限られた時間内での取組でありましたが、新しい世代を担う子どもたちが中心となり、今後は海の地域での相互交流の第一歩となることを期待しています。



お友達になれるかなあ～



みんなの願いは一つ



メモリアル木製ツリー作りへ書き込み

(北部地方振興事務所)

「みんなの森林づくりプロジェクト」推進事業がスタート!

県では、みやぎ環境税を活用して、「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業」により、県内のNPOや企業、団体等が自主的かつ主体的に企画・提案する森林づくり活動に助成しています。

助成の対象となる活動は、下表のとおりです。

平成二十四年八月一日から募集を開始し、これまでに四件の提案を採択しました。

①仙台東りさと文化財の森を創る会「沿岸部への植栽と漆や蜜源植物を活用した地域支援」

②NPO法人フォレストサイクル元樹「住民協同の森林整備による緑地公園の再生」

③森のなかま「企業と連携した荒廃雑木林の再生活動の実施」

④社団法人根白石愛林公益会「企業と連携した里山での植樹イベントの開催」

どの提案も情熱とアイデアに溢れるもので、県民の皆さんの森林に対する愛情が感じられます。十月には二次募集を行います。

	県民提案型プロジェクト支援	県民参加の植樹イベント支援
内 容	県民が提案する森林づくりプロジェクトに対して、その経費の一部を助成	県内各地で実施する植樹を伴うイベント等に対して、その経費の一部を助成
	※一定期間、継続的に実施される取組	※単発的に実施されるイベント等
取組例	◇水源林や荒廃森林の再生(植林、除間伐等)の森林整備活動 ◇森林整備に関する県民の理解を高めるための森林環境学習等 ◇上下流の住民団体等の交流・連携による森林整備プロジェクト ◇森林整備の担い手育成活動、県産材利用促進に係る活動 など	

い、さらに三件の提案を採択しております。

助成の対象経費や補助率等、詳細については宮城県農林水産部林業振興課のホームページをご覧頂るか、同課企画推進班(電話〇二二二二二二二二九一一)までお問い合わせ下さい。

(林業振興課企画推進班)

「森林ボランティアの森造成植樹祭及び情報交換会」が開催されました!

去る六月十六日、黒川郡大和町の県有林において「森林ボランティアの森造成植樹祭及び情報交換会」が開催されました。本植樹祭は、森林づくりボランティア活動を実践しているグループ間の連携を図ることを目的に、一昨年から始まりました。

宮城県緑化推進委員会が中心となつて準備が進められ、開催にあたっては、復興支援として富士通株式会社から多大な寄付金を受けました。この場をお借りし改めて感謝申し上げます。当日は、森林ボランティアをはじめ、富士通株式会社グループの社員及び家族、林業関係団体等、総勢一三六名が参加し、ヤマボウシ、ヤマモミジ、ヤマザクラ、コナラ等、千本の広葉樹を植栽しました。参加者は、森林ボランティアの皆さんの手慣れた作業に感心しながら、植樹後は充実した表情で下山してました。

植樹祭の後には、森林ボランティア団体と県の林業関係課との

の情報交換会が開かれました。県からは、多様な主体による森林づくりを支援する林業施策について情報提供しました。森林ボランティア団体からは、日頃、学校や地域住民と連携して森林整備や自然観察会等を行っている様子が報告され、大変有意義な情報交換会となりました。



植樹後晴れやかな表情で記念撮影

県では、今後も、県民参加の森林づくり活動の拡大と定着化に向け、「みんなの森林づくりプロジェクト推進事業」等による支援を通して、多くの県民の皆様が森林づくり活動に関わることが出来る環境づくりを進めていきます。

(林業振興課企画推進班)

森林・林業教育の支援体制
 ●せんだい「森の教室」
 サポートバンクを設置！●

森林は、水源のかん養や、大気中の二酸化炭素の吸収固定による地球温暖化防止に寄与するなど、地域の環境保全に大きな役割を担っているほか、地域から産出される木材は、住宅建築や木製品に利用されるなど、古くから地域の文化や産業に深く関わっています。

こうした森林の大切さや、木材利用の意義は多くの一般県民に理解されているところですが、とりわけ次代を担う子供達を対象とした森林・林業教育が重要であると考え、仙台地域の森林と地域の人・産業・文化の関わりを重視した教育活動を推進するため、せんだい「森の教室」サポートバンクを設置し、管内の小・中学校等が主体的に行う活動を支援することとしました。

サポートバンクでは、活動指導者(サポーター)の登録及び紹介、活動プログラム(カリキュラム及びフィールド)の設定などを行い、森林の働きや、木材の利用など、森林・林業分野の

多岐にわたる学校等からの要請にに応じて、サポーター登録者から適任者を選任し、コーディネートすることとしています。

十月末現在で、管内の林業経営者、キノコ・木炭など特用林産物の生産者、宮城県森林インストラクター協会や管内森林組合などの関係団体から同意を得て、二十の個人・団体がサポートバンクに登録されています。

今後も、地域として繋がりを持った「森林・林業教育」を定着させるために、サポーターの更なる登録や活動のコーディネートを行っていきます。



サポートバンクの活用によって実施された
 仙台市立上愛子小学校での活動の一コマ

(仙台地方振興事務所)

**「栗原の森林・自然・きのこ
 生産現場見学会」を開催**

栗原地域は、平成二十年岩手・宮城内陸地震、さらには昨年の東日本大震災により大きな被害を被りました。

そのため、七月二十一日、「内陸地震の風化を防ぐ」「福島第一原子力発電所事故による風評被害を払拭する」ことを目的に、公募により仙台市在住の県民を中心に三十九名の参加の下、見学会を開催しました。

午前中は、岩手・宮城内陸地震により崩壊した栗原市栗駒耕



冷沢で見学

英地内(冷沢)の復旧状況の見学と語り部による内陸地震の被災体験を聞きました。



菌床しいたけ施設で見学

午後には、復旧した菌床しいたけ生産施設の見学と収穫体験を行いました。

参加者を対象にしたアンケートでは、「栗原の震災も気になっていたので来て良かった」「風評でしいたけは買っていないかった。説明・見学で安心して食べられることを知り参加して良かった」との意見が出されました。

(北部地方振興事務所
 栗原地域事務所)

特用林産物の 出荷制限・出荷自粛について

平成二十三年三月十七日に食品衛生法に基づく放射性物質の暫定規制値(五〇〇ベクレル/銩)が設定され、平成二十四年四月一日に新基準値(一〇〇ベクレル/銩)が施行されています。

宮城県の特用林産物(食用)については、四月から十月までの半年間で、スクリーニング検査を十六品目、一九二点、精密検査を十四品目、一〇九点、実施し、七品目、四十三点が基準値を超過していることを確認しました。

基準値を超過した特用林産物については、市町村毎に速やかに出荷制限措置等を講じており、流通品の安全性を確保しております。

○出荷制限

平成二十三年度

(五〇〇ベクレル/銩超)

原木しいたけ(露地)

白石市、角田市、丸森町、

蔵王町(二市二町)

平成二十四年度

(一〇〇ベクレル/銩超)

原木しいたけ(露地)

村田町、気仙沼市、南三陸町、栗原市、石巻市、大崎市、東松島市、登米市、仙台市、名取市、加美町、大和町、富谷町、川崎町、色麻町、七ヶ宿町、大衡村(八市八町一村)
原木しいたけ(露地)は二十一市町村に出荷制限指示。

たけのこ

白石市、丸森町、栗原市(二市一町)

山菜類

・こごみ

大崎市、栗原市、加美町、

気仙沼市(三市一町)

・こしあぶら

栗原市、登米市、大崎市、

南三陸町、蔵王町、気仙沼市(四市二町)

・ぜんまい

丸森町、気仙沼市、大崎市(二市一町)

野生きのこ

栗原市、大崎市(二市)

野生きのこであるオオイチョウタケ、ナラタケが基準

を超えたことから、栗原市及び大崎市の二市に対し「野生

きのこ」として出荷制限指示。

「出荷制限」と「出荷自粛」

●「出荷自粛」とは、その市町村(A)で初めて基準値を超えた際、知事より、生産者・市町村・関係者に対して「出荷自粛」を要請します。

●その際、県では、「出荷自粛」市町村の周辺市町の検査を強化をしますが、その周辺市町村(B)で同一品目の産物から、基準値を超えた場合、(A)と(B)の両方の市町村に、「出荷制限」の指示が原子力安全対策本部長(内閣総理大臣)より出されます。

○出荷自粛

平成二十三年度

(五〇〇ベクレル/銩超)

原木ムキタケ(露地)

栗原市(一市)

平成二十四年度

(一〇〇ベクレル/銩超)

山菜類

・たらのめ

大崎市(一市)

県ではこれからも、きのこや山菜等の食の安全・安心を確保するため、今後ともスクリーニング検査及び精密検査を実施することとします。



なお、県で行う検査は流通品が対象ですので、自家消費用として栽培・採取した山菜やきのこの持ち込み検査は実施できません。

県内全市町村に県が簡易測定器を貸与しておりますので、お住まいの市町村にお問い合わせ下さい。

(林業振興課地域林業振興班)

「竹林再生プロジェクト」開始

昨年発生した福島第一原子力発電所事故の発生により丸森町耕野地区の特産品であるタケノコが、今年の五月以降出荷出来ない状態が続いています。

こうした中、来年以降のタケノコの生産再開を目指した取組として、竹林内の効果的な除染方法を検証する「竹林再生プロジェクト」の取組を始めました。同プロジェクトには、大河原地方振興事務所職員だけでなく、宮城県林業技術総合センター、丸森町役場、白石市役所職員と耕野タケノコ生産組合員が参加しました。

七月五日に行われた第一回目の実証活動では竹の葉や幹、根や土壌等を採取後、放射線量を計測し、どのように放射性物質が竹林内に分布しているかを明らかにしました。結果として、古い竹の葉や、落ち葉等に比較的高い濃度の放射性物質が付着していることが判明しました。

この結果を基に、はじめに古い竹を中心とした間伐を行い、間伐を行ったことで放射性物質

が林外に搬出されただけでなく、竹林の中に日の光が届きやすくなり、よりタケノコを生産しやすい環境を整備することが出来ました。

間伐後には、レーキ等を使って竹林内の落ち葉や土壌を掻き出し、さらに多くの放射性物質を林外に搬出しました。

今後適切に必要な作業を行うにつつ、これまで得られたデータを基に丸森町耕野地区の生産者と一緒にタケノコの生産再開に向けた活動を行って参ります。



(大河原地方振興事務所)

きのこのイベント 大いに盛り上がる

風評被害の払拭へ

放射能汚染の影響により、きのこを取り巻く状況は日々厳しさを増し、秋のきのこシーズンを迎えたにも関わらず以前のような盛り上がりはありません。そのような中、風評被害を払拭すべく、登米管内できのこ関係のイベントが相次いで開催されました。

まず、十月十三日の土曜日、米川活性化サポート会議(米川生産森林組合・登米市・宮城県)が主催する「きのこ狩りと木工教室」が登米市東和町で開催されました。

当日は、石巻市など沿岸部の参加者を中心に総勢三十一名が参加、「東和きのこの森」で、制限時間一時間、重さ一・三銚を限度にまいたけ狩りを行いました。熱心にまいたけを狩ったせい、全員制限重量をオーバーしたよう



大満足の参加者たち

でしたが、特に計量チェックもされず、収穫量に大満足。昼食には、

新鮮なまいたけを使った「まいたけ汁」が提供され、舌鼓を打っていました。



しいたけの炭火焼でPR

沿岸部の参加者は震災後、初のまいたけ狩りということで、喜びもひとしおのようでした。また、翌日の十月十四日の日曜日には、登米市迫町で開催された「登米市産業フェスティバル」において、登米市、宮城北部流域森林・林業活性化センター登米支部の協力のもと、原木しいたけ(施設)の安全性をPRするため、試食・販売を行いました。炭火で焼いたしいたけの香りに惹かれて、客がひっきりなしに訪れ、昼前には用意した一〇〇パックが完売してしまい、「風評被害が存在しないのでは?」と思えるほどでした。

きのこや山菜など特用林産物を取り巻く状況は、依然先が見えない状態で、生産者の中には閉塞感が漂っています。そのような生産者に寄り添い、今後もしっかりと支援を続けて行きたいと思えます。

(東部地方振興事務所 登米地域事務所)

松くい虫 国営防除事業の実施

宮城県の松くい虫被害は、昭和五十年に石巻市で発生が確認されて以来、現在でも県内各地で被害が発生しています。

その中でも、気仙沼市は東北地方太平洋沿岸の被害最先端地域に指定されており、国が主体となって駆除事業を重点的に実施してきました。

駆除事業を円滑に進めるために、毎年国から宮城県へ駆除事業の実施が委託されており、気仙沼地方振興事務所が事業の管理を行ってきました。

今年度は、東日本大震災によって大きな被害を受けた気仙沼市の事務軽減を図るため、例年気仙沼市で実施してきた箇所についても、宮城県で実施することとなりました。

今年度の薬剤散布による防除は七月三十日から三十一日にかけて実施されました。散布は周辺住民の方々の生活に影響が出ないように、また海岸地域に多く散布するため漁業活動に影響が出ないように、日の出直後の薄暗い中で行われました。

気仙沼市の観光名所である岩

井崎や巨釜・半蔵地区、今年度県内唯一の海水浴場となった大島小田ノ浜地区など計九箇所三十二・六九畝で散布が実施されました。実施にあたっては、散布中の第三者の進入や、区域外への誤散布などが起こらないよう注意し、無事故で完了することができました。

昨年度は散布の適期が震災発生直後であったため、散布実施が困難と判断し事業を中止しました。そのため、今年度は例年に比べ被害量が増えたように感じられました。

今回実施した薬剤散布の効果は十分に発揮され、松くい虫被害の拡大が少しでも抑えられるよう期待しています。



(気仙沼地方振興事務所)

緑の大切さを学ぶ！ 第三十七回

宮城県みどりの少年団大会
開催される

今年で三十七回目となる同大会が七月二十七日に開催されました。昨年度は東日本大震災の影響で中止となり、二年ぶりの開催となりました。会場は震災により県民の森周辺の道路等が通行できない状況ではありましたが、青少年の森を会場として、県内各地から二十一団約三五〇名が参加し、植樹活動・式典・交流会が行われました。

大会では、式典会場までの自然観察から始まり、植樹会場ではムラサキシキブやナツハゼなどの広葉樹十二種四〇〇本が少年団員によって丁寧に植樹されました。

式典では、少年団から地元利府町長へ記念木が贈呈されたのを受け、町長から歓迎とお礼の言葉がありました。また、利府町みどりの少年団から日頃の活動内容が発表され、活発な活動の発表に会場から拍手が起きました。

交流会・レクリエーションでは、協力団体が準備した各コーナー

で、木工クラフト・ネイチャーゲームなどが行われ、団員同士の交流も深まり有意義な大会となりました。



植樹状況



交流会の状況

(自然保護課みどり保全班)

森林施業担い手確保・育成 推進会議・経営者セミナー を開催しました

県森林組合連合会、県内の各森林組合長及び県関係機関による会議及びセミナーを平成二十四年十月三十日、県林業技術総合センターで開催しました。

会議では、森林・林業を早急に再生していくための指針である「森林・林業再生プラン」を進める上で重要となる森林施業の担い手の確保・育成を図るための課題等が議題となりました。

今回は、今年度からスタートした森林経営計画制度を進めていく上で緊急の課題である施業集約化の推進体制について、各管内の現状報告と意見交換を行いました。

その際、出席者からは、県・市町村、事業体のマンパワー不足や森林経営計画制度の要件への対応の難しさなどの意見が出されました。

また、森林経営者セミナーでは、林政審議会会長である岩手大学教授の岡田秀二氏により「森林施業集約化を進めるために経営者がすべきこと(森林・



林業再生プランの実現に向けた取組の推進」と題して、経営者に求められる意識改革の必要性について講話が行われました。

講話では、森林・林業再生プランが従来の制度からの大変換であり、経営者はこれまでの補助金依存体質から脱却すること、経営者としての自覚と目標・理念を持ち、自ら動いて「経営」をしていかなければ、生き残れないこと、西日本の事業体は着実に改革を進めており、危機意識を持つべきといった厳しい指摘がありました。

(林業振興課地域林業振興班)

スミセイの森宮城 が開所しました

住友生命保険相互会社(本社・大阪府大阪市。以下「住友生命」)は、「わたしたちの森づくり事業」により利府町森郷字内ノ目北の県有林の命名権を取得し、「スミセイの森宮城」と名付けて平成二十四年十月六日に森の開所式を開催しました。

住友生命は、平成四年に職員参加型ボランティア活動「スミセイ・ヒューマニー活動」を開始し、以来二十年にわたり全国各地で様々なボランティア活動を行っており、中でも森林の間



伐や植林活動などの環境保全活動に積極的に取り組んでいきます。

「スミセイの森宮城」はその活動フィールドとするもので、住友生命が森林の命名権を取得するのは全国初となります。

開所式には仙台総支社の職員とその家族等四十一人が参加し、記念式典の後、参加者による広葉樹苗の植栽を行いました。また、植栽の後には宮城県森林インストラクター協会の指導員を講師として、「スミセイの森宮城」の自然観察を楽しみました。

「スミセイの森宮城」の面積は四・六八畧で、区域の六十畧はヒノキ人工林で宮城県が整備を行います。住友生命の職員が参加する森づくり活動や自然観察会などを継続的に実施していくこととしています。

「スミセイの森宮城」での活動が、環境保護の推進につながるよう期待されます。

(森林整備課県有林班)



研究情報コーナー

■無花粉(雄性不稔)スギの開発

○研究の背景

スギ花粉等による花粉症患者は、国民の二十%以上と言われ大きな社会問題となつていま

宮城県ではこれまでの研究成果により、花粉の少ないスギ品種が開発されています。これらの品種は、さし木による増殖で苗木を供給し、花粉症対策苗木として植栽されています。

しかし、これらの品種は花粉を全く飛散させないものではなく、根本的な対策とはなり得ません。そこで、花粉を全く飛散させないスギ品種(無花粉)の開発が必要となります。

○試験方法

最近、他県で無花粉スギ品種の供給が開始されつつありますが、宮城県における成長状況が不明なため、それを直ちに導入することはできません。

当センターでは、(独)森林総合研究所林木育種センターで開発された無花粉スギ「爽春」を研究材料として譲り受け、育苗を続けてきました。



育苗中の無花粉スギ「爽春」

無花粉となる性質は劣性遺伝であり、県内の品種でも無花粉の性質を隠し持っている可能性があり。その確認のため今年度から「爽春」に雌花を着花させるための薬剤散布を行い、その雌花に宮城県の精英樹の花粉を人工交配させ採種します。

○試験結果及びまとめ

宮城県に適した無花粉スギ品種の開発は、交配によって得られた種子で苗木を育て、その雄花を調査することにより無花粉の状態を確認します。

更に、無花粉の性質を持ち、その後の成長が良い個体を選抜する必要があります。宮城県の気候風土に適し、健全な成長をとげる品種の開発には時間が掛かりますが、着実に研究を進めてまいります。

■木質系燃焼灰の有効利用に関する実証試験

スギ樹皮は、ペレット化しストーブの燃料として有効に利用できますが、燃焼灰に基準値以上の六価クロムが含まれることが問題となっていることから、センターでは平成二十二・三年度に燃焼灰から六価クロムの除去する試験をしましたのでその結果について紹介します。

六価クロムは発癌性物質として扱われ、毒性が高いことで知られています。

試験はスギ樹皮ペレットをセンター内のペレットストーブで燃焼し得られた燃焼灰及び、その灰と土壌(黒ぼく土・森林土)・腐葉土・バーク堆肥・粉炭とを混合した混合物について、国の土壌環境基準に基づく六価クロムの水への溶出量について検討しました。混合させるものは、簡単に手に入り、混合後は土壌改良材へ利用を踏まえ選定した。土壌と腐葉土の一部はセンター内で採取したものを、他は市販品を用い、混合量は灰の三(七倍(重量比))としました。

試験の結果、溶出量は、森林土・腐葉土の七倍混合で検体の



スギ樹皮ペレット

八割が環境基準(〇・〇五、リッ／リッ未満)を満たしました。特に森林土は三・五倍混合でも六割が満たしました。なお、燃焼灰の六価クロムの溶出量は、〇・九一、リッ／リッでした。それ以外の混合物ではすべて、基準を超えました(ただし、燃焼灰の溶出量は、一・八、リッ／リッ)。

今回の試験から森林土・腐葉土が六価クロムの溶出量の低減に有効であることが分かりました。これは土壌微生物の働きが大きいためと思われるます。

なお、混合物をスギ等の苗木への土壌改良材として施用しました。が、生育障害はみられませんでした。



(林業技術総合センター)

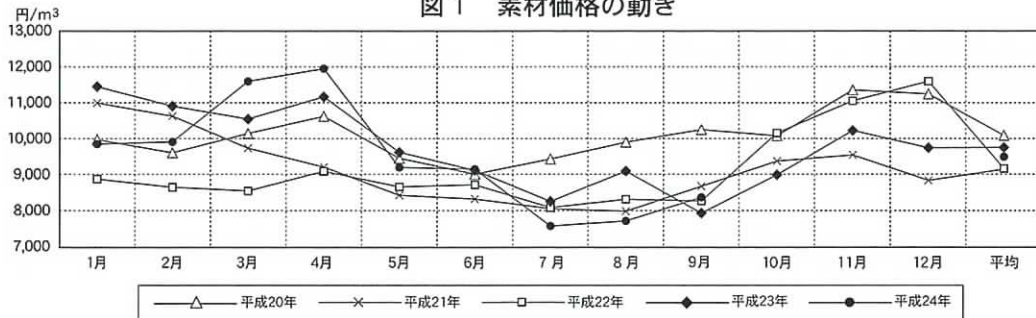
木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況 9月

樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m ³)					
			仙南	石巻	仙北	東和	大衡	津山
スギ	3.00	14~16	—	—	—	—	7,920	—
		16~30	10,800	—	—	—	—	—
		20~30	—	—	—	—	—	10,080
	4.00	10~13直曲	7,200	6,600	7,200	7,200	7,200	7,200
		14~18	9,000	7,920	7,920	7,920	7,200	8,300
		20~28	—	9,720	9,000	9,720	—	—
		30上	—	10,080	10,080	10,080	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	10,080	—	—	—	9,720	9,720
30上		10,080	—	—	—	10,080	10,080	
1.95	16上	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	

資料：県森林組合連合会

図1 素材価格の動き



素材：県森連共販所市況(平均価格)

特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位：円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成19年	962	869	884	843	774	664	684	877	887	856	922	1,060
平成20年	977	990	959	903	836	771	760	773	870	846	968	964
平成21年	973	893	886	884	770	716	719	760	741	840	791	844
平成22年	936	840	783	760	710	661	667	786	810	791	843	938
平成23年	924	862	778	758	740	773	754	797	868	861	867	975
平成24年	939	875	798	755	611	711	707	785	829	882		

資料：仙台中央卸売市場

図2 生しいたけ価格の動向

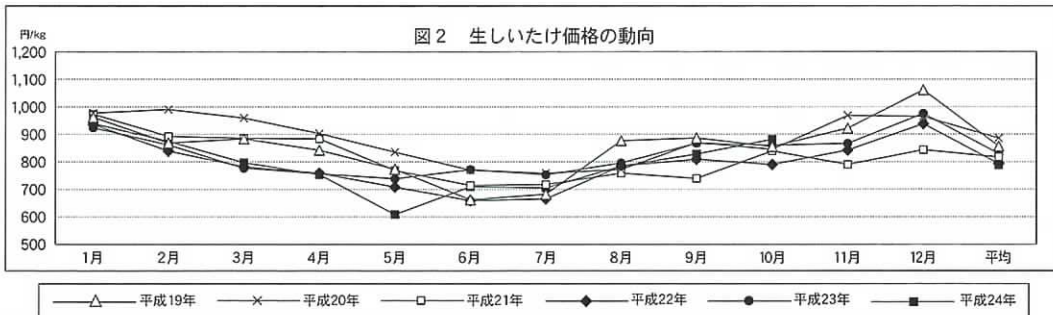


表3 宮城県の新設住宅着工戸数

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
平成24年8月(戸)	1,779	1,177	602	66.2
平成23年8月(戸)	1,479	1,064	415	71.9
前年同月比(%)	120.3	110.6	145.1	—
平成24年1月~24年8月(戸)	12,194	8,313	3,881	68.2
平成23年1月~23年8月(戸)	7,448	5,259	2,189	70.6
前年同期比(%)	163.7	158.1	177.3	—

資料：住宅着工統計

概況

新設住宅着工戸数

新設住宅着工戸数が復興需要で引き続き旺盛である。構造別では非木造住宅が増加してきている。持家着工数の前年8月比が98%に対し、分譲住宅は196%と高くなっている。

素材動向

各センターへの入荷は比較的順調であったが、出品材には中害等の被害木など低質材が多く平均単価を下げる要因となった。価格については、4.00m 10~13・14~22cmの新材については値上がり傾向にあり、3.00m 20~30cm、3.65m 24上材については、10,000円/m³を上回る価格になっている。

国産材(生産販売)、木材チップ生産
製材業、伐出造林請負



宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 征弘

本社 〒980-0871
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150
営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社
株式会社宮城環境保全研究所

明治41年創業
～100年かける家づくり～



自然との共生循環をテーマに、
私たちは森を愛し大切に育てています。

〒989-1601
宮城県柴田郡柴田町船岡中央 1-9-12
TEL(0224)58-1100 FAX(0224)58-2252
www.web-sakamoto.co.jp

宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘
専務理事 亀山 武弘
理事 小山 松夫
理事 佐々木 市夫
監事 阿部 貢三
監事 小澤 幸三

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

宮城県木材チップ工業会

会長 奥津 文男
副会長 亀山 征弘
副会長 永井 政雄
副会長 米澤 光秀
副会長 山形 喜昭

ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号
電話 022(261)2151

見て触れて 住んでしみじみ 木の住まい 宮城県木材協同組合

理事長 亀山 征弘

宮城県木材需要拡大協議会

会長 高橋 義宣

みやぎ材利用センター

会長 亀山 征弘

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8
TEL: 022-233-2883 FAX: 022-275-4936

一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 尾花 健喜智
事務局 長 佐々木 治樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号
TEL (0229) 22-1281
FAX (0229) 22-1281
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

もり 未来に向けた森林づくりへ邁進 元気な森林資源を次世代へ

—— 森林整備法人 ——

社団法人 宮城県林業公社

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172
E-mail: miya-rin@violin.ocn.ne.jp

http://www16.ocn.ne.jp/~miya-rin/



地域林業の活性化と農山村地域の振興・発展に貢献

林業従事者の退職金共済・社会保険への助成、林業就業支援講習・「緑の雇用」現場技能者育成研修・森林・林業人材育成加速化事業等の実施、就業相談会の開催、林業関係雇用情報の収集と無料職業紹介等を行っています。

財団法人 みやぎ林業活性化基金 宮城県林業労働力確保支援センター

〒980-0011 仙台市青葉区上杉2丁目4-46 宮城県森林組合会館内
TEL/FAX 022-217-4307

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

筒井鋼機株式会社

本社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807
郡山営業所 郡山市田村町金屋字新家34-1 TEL024-944-5912・FAX024-943-5987

E-mail info@tutuikoki.co.jp
U R L http://www.tutuikoki.co.jp

緑の募金にご協力ください

ひろげよう 大地うるおす 植樹の輪 (平成24年 国土緑化運動標語)

平成23年の緑の募金の結果についてお知らせいたします。



社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎内
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

農林中金は、「森林再生基金」(FRONT80)等を通じ、大切な森林資源の維持・確保に向けた取組みを積極的に支援しています。

農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号 (JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

Forest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166	東和木材センター 0220-45-2240
大衡総合センター 022-345-2205	津山木材センター 0225-68-3038
岩出山木材センター 0229-72-1877	石巻木材センター 0225-95-6065

■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号 ☎022-301-7501
編集協力 宮城県農林水産部林業振興課

林業の今を伝える月刊誌

平成25年度の購読申込受付中!!

月刊 現代林業

A5判 80頁
年間購読料 5,200円(送料込み)
激動の時代に対応したテーマを、読者の立場で分かりやすく。
「そこが知りたかった」が読める月刊誌です。
明日の林業を拓くビジネスモデル、実践例を満載。林業ビジネス誌として、みなさんの林務行政運営、林業経営に役立つ最新情報が毎月お読みいただけます。担当者だからこそ欲しい解説情報満載。



林業新知識 12



月刊 林業新知識

B5判 24頁
年間購読料 2,800円(送料込み)
山林所有者みなさんと、共に歩む月刊誌です。仕事と暮らしの現地情報が読める実用誌です。
山林所有者や林業研究グループの訪問記事を毎月お届けします。全国の山林所有者、林業経営者が登場します。山林の経営や管理、手入れなど、あなたの実践にお役立ていただけます。

山林

A5判 66頁
年間購読料定価 3,500円(送料込み)
明治15年1月の本会創立とともに刊行され、以後一回の欠号もなく発行をつづけ、既に140号を超えています。したがって、本誌は、明治以降のわが国林業の生き証人としても高い評価を得ています。



〒981-0914

仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階

宮城県林業振興協会

図書申込、
問い合わせは

TEL 022-301-7501 FAX 022-301-7502

E-mail: miyagi@ringyou-fukyu.net